

ONAIR

NO. 93

放送大学通信 オン・エア

発行月 平成21年3月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地
043-276-5111(代)

CONTENTS

どうなるこうなる、放送大学	1
特別座談会「地域社会での放送大学の役割・期待」	3
大学叢書の発刊	7
平成21年度学部・大学院開設科目紹介	8
放送大学エキスパートのご案内	12
サークルだより	13
学習センターだより	14
退任のご挨拶	16
同窓会・卒業生だより	18
笠原先生を悼む・大学の窓からのご案内	19
インフォメーション	20

どうなるこうなる、放送大学

～4月から変わります～

副学長 岡部 洋一

放送大学では、2009年4月からいくつかの新しい試みが始まります。

学科、授業の改変

2009年度から学部や大学院が再編成されます。学部は、従来3学科相当(3コース6専攻)あったものを一つの学科(1学科5コース)にし、専門分野間の壁を一層低くするとともに、特に、やや分りづらかった大学院を、ほぼ対応する学部のコースの上に載せることにより、1研究科6プログラムとするもので、前よりも分かりやすい形に作りかえました。

学部では、授業科目を、従来の共通+専門の2区分から、基礎(入門的科目)、共通(各コース内での共通的科目)、専門(より専門的な科目)、総合(学

際的な専門科目)と4区分に分類しました。

さらに、面接授業は、1時限当たりの授業時間を85分、授業回数は8回に変更となり、十分な授業時間を確保しつつ、休憩時間をきちんと取れるようにしました。さらに、毎週型、土日型の「型」を廃止し、学期をとおした開講期間とし、多様な曜日による授業が開講されます。

元々、こうした改革は、学生の目線に立ったときに、少しでも分りやすくなるようにという立場で行われています。移行期は若干、混乱があるかも知れませんが、慣れていただくと、より便利になったことがご理解いただけるかと信じております。

なお、学部の方は、卒業が間近な場合などを除いて、新しいコースに移行されることをお勧めいたします。

システム WAKABA

2009年度から、システムWAKABAの名前のもとで、教務システムが刷新されます。「WAKABA(若葉)」とは、放送大学本部の住所からとりました。



学部プログラムの再編成図



※情報系の科目・教員が「産業と技術」から「人間と文化」へ移ります。



入力している学生と補佐する職員

すでに、沢山の方が、このシステムから科目登録などの入力をされているのではないかと思います。このシステムの特長は、科目登録、申請、変更、届出などが簡単に早くできるようになるとともに、科目登録の状況や試験結果なども従来に比べて早く閲覧することができるようになっています。また、学生の皆さんへのお知らせなども掲載され大変便利になります。

システムWAKABAの導入の結果、従来は次学期の科目登録の際、前学期の試験結果が分らなかったのですが、これからは試験の可否結果を確認してから、科目登録が可能になります(2010年度1学期分の科目登録から)。

最初は、いろいろ細かい使いづらさもあるかと思いますが、徐々に皆さんの意見を反映し、使い易いものとしていきたいと思っています。

IT化が進みます

まだ余り大々的には宣伝しておりませんが、放送大学も、いつのまにか徐々にIT化が進行しつつあります。

まずラジオ授業科目はほぼ全科目、Webから、いつでもどこでも受講できるようになりました。テレビ科目も10数科目が、Web経由で見ることができるようになりました。テレビ科目は著作権などの権利処理に経費がかかるため、一気に数を増せない事情があることを、ご理解ください。

また、2009年度後半か、もしくは2010年度より、通信指導問題をWeb上で解けるようにすることも考えています。これにはLMS(学習管理システム)という環境を使いますが、恐らく、その環境では、同じ科目を履修している学生同士や先生が電子掲示板を介して議論を行うこともできるようになり、今

迄の単方向的な放送授業が、やや双方向化されることを願っております。

また、お知らせなどを掲載した放送大学のホームページも、もう少し見易いものに変更されます。

すでにニュースなどでご存知かも知れませんが、幕張の本部に隣接したNIME(メディア教育開発センター)が2009年度から、放送大学に移管される予定です。従来、このセンターは、IT教育の研究開発と普及を主な仕事としてきましたので、本学のIT化にとって、大きな力になると信じております。ぜひ、ご期待ください。

ITに慣れよう

システムWAKABAに始まり、教育の面でもどんどんITが導入されていきます。もちろん、学生さんによっては、インターネットの太い回線が引けない、パソコンに強くないといったデジタルデバイドが存在します。放送大学では、そうした人も不利にならないように配慮していきますが、パソコンに弱いだけで、IT化に乗れない人は、この際ぜひ習熟して下さることを薦めます。

パソコンを知ることは、皆さんの可能性をずっと高くします。世界のあらゆるところから情報を得ることもできますし、自分の表現能力を高めることもできます。単位のない一つの科目だと思って勉強していただければ、きっと得るものも多いと信じています。まずは放送大学のホームページを見て、どんなことが書かれているか、見てみましょう。慣れてきたら、右上のGoogleと書いてあるところに、自分の関心のある単語を入れて、放送大学のページを検索してみましょう。さらに慣れたら、誰か知っている人に教えてもらってGoogleなどの検索ページから、自分の関心のある情報を世界中から探してみましょう。さらに、メールまで使えるようになれば、あとはどんどんパソコンが道具として使えるようになってきますよ。

2009年度は放送大学にとっても、パソコン苦手な皆さんにとっても、IT化元年となることを期待します。



放送大学ホームページ

『地域社会での放送大学の役割・期待』

日本社会事業大学学長
放送大学客員教授
大橋 謙策 様

函館大学教授
元北星学園大学学長
土橋 信男 様

放送大学沖縄学習センター所長
元琉球大学副学長
比嘉 辰雄 所長

放送大学は、創立当時に提唱されていた「地方の時代」のスローガンと歩みを共にし、大学教育に通信制を導入することで、一定の足跡を地域に残してきました。そして今年25周年。次の四半世紀に向けて、地域社会への新たな貢献をめざし、放送大学が地域とこれからどのように関わっていくべきか、放送大学に寄せられる役割と期待といった視点から、社会教育に精通された学外の2人の先生をお招きし、率直で忌憚のないお話を伺いました。司会は岡崎友典准教授（発達と教育専攻）です。（本文中の氏名は敬称略とさせていただきます）



（前列左から）比嘉 辰雄 所長、土橋 信男 函館大学教授、大橋 謙策 日本社会事業大学学長（後列）岡崎友典准教授

生涯学習に対する地域のニーズを背景に 高まる放送大学への期待

司会 本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。放送大学は、生涯教育を担う通信制の大学として機能していますが、地域社会での生涯学習の現状について、まず、札幌市の教育長もご経験された土橋先生にお聞きします。

土橋 以前、札幌市で生涯教育に関する調査を行ったのですが、そのニーズは高いですね。ところが、大学は敷居が高く自分には関係ないと思っている人が多くいらっしゃる、特に年長者の方に。また、広域の北海道は、都市部を除き大学過疎地です。その意味で放送大学の果たす役割は大きいですね。TVやラジオに、interaction（相互作用）のあるインターネット配信がかみ合えば、学習への高まるニーズにもっと応えられるでしょう。ただ、面接授業や単位認定試験の際の通学を考えると、札幌の学習センターと旭川のサテライトスペースの2カ所だけではいかにも少ない。そして、やはり周知不足という点も否めません。高校を出ないと放送大学に入れないと思っている人が圧倒的に多い。義務教育を終えさえしていれば科目履修なら入学できるということがもっと理解されれば大きな受け皿となるでしょう。

司会 比嘉先生は琉球大学の副学長を経て、現在放送大学の沖縄学習センター所長に就いておられます

が沖縄の現状についてお話しください。

比嘉 沖縄は本島その他の島嶼を含め、東西1,000キロ、南北400キロに及び、その海域の占める面積は日本の全国土面積（38万平方キロ）より広いのです。高等教育機関は、短大を含めて8つの通学制大学が沖縄本島にあり、その他の島々の人が大学に通うには島を出なければなりません。ですから通信制の放送大学は、沖縄の人にとっては大変ありがたい高等教育機関です。ただ、学習センター



比嘉 辰雄 沖縄学習センター所長

は一カ所だけです。石垣島出身の方がこう申しおりました。「日本国内で、どこかの大学から400キロ以上はなれている所は他にない」と。石垣市の放送大学学生は107人（H20.10月現在）ですが、人口比では全国平均のおよそ3倍で、沖縄全体でも2倍です。つまり成人教育へのニーズは沖縄でも高い、ということです。放送大学は誰でも入学できる、ということ沖縄中の人に周知できれば潜在しているニーズをもっと掘り起こせるのですが…。そういう事情もあるのでしょうか、先般、石垣市は台湾の台北教育大学に留学生を送る計画を発表しました。台湾まで那覇より近い280キロ、加えて領土問題のある尖閣諸島をその行政区域に持ち、中国語が使え中国・台湾の事情に通暁する行政マンがほしい、というのが

背景にあります。そういうことも含めて言えば、成人教育への地域ニーズを放送大学は十分汲み取っていない、ということが言えるのかも知れません。

司会 生涯学習に対するニーズは地方にも確固としてあり、放送大学はそのニーズに十分応えきれていないのではないか、というご指摘ですね。大橋先生は全国社会教育連合会の会長もおつとめですが、生涯学習と地方自治体の行う社会教育との連携という点ではいかがでしょうか。

学習で得たものを地域へ— 求められる社会還元型ミッション

大橋 1984年に発表した論文で、社会教育について「市町村が中心となり、十分な教育を受けられなかった人への補足・代替教育機能の部分と、地域づくりでの貢献という機能があったが、社会教育も公民館も二つとも中途半端になり、カルチャーセンター化していった。改めて、公民館を中心に行っている社会教育をもっと地域づくりという視点に立ったものに焦点化させ、体系的な学習を必要とするものは大学に委ねた方がよい」といった趣旨を述べました。ちょうど同じ年に放送大学は誕生しています。また10年ほど前に、東京都の生涯学習審議会に「自己実



大橋 謙策 日本社会事業大学学長

現・自己充足型に偏っている社会教育・生涯教育の軸足を、社会貢献・社会還元型に移すべきだ」という提言もさせていただきました。社会教育面での大学の有効

活用と、社会貢献・社会還元型への変換、という2つの観点から申し上げれば、全国ネットを持つ放送大学こそが地域づくりを目的とした社会教育の担い手たりうる、という強いミッションを持つべきだと思うのです。

土橋 その意味では、ボランティア活動と結びつくプログラムがもっと放送大学にあってもよいのかも知れません。私は北海道のボランティア振興協会と関わった関係で、道と姉妹関係にあるカナダ・アルバータ州での活動の模様を視察する機会を得ました。そこでは、地域づくりの一環として歴史的価値の高い砦跡公園の復元にボランティアが深く関わってい

ました。それも10年、20年という長期スパンで。学習したものを地域づくりにいかす、という視点は大学にも求められると思います。

大橋 NHK学園の高等学校専攻科では、社会福祉コースの卒業生をCS（コミュニティ・スクール）ネットとして組織化し、社会教育も行う、ボランティアも行う、地域福祉も行う、しかも全国ネットで行う、という仕組みを機能させています。同じような仕組みを放送大学でも導入して、体系的な学習を続けながらプラスαとして社会貢献・還元型の活動を全国ネットで行えば相当な強みになるはずです。

活躍が期待される 「エキスパート」認証取得者

司会 放送大学では平成18年度から科目群履修認証制度（以下「エキスパート」認証制度）を導入しています。その中の「市民・社会・コミュニティ」という分野では、学んだものを地域に還元するという目的で、市民活動支援プラン、次世代育成支援プラン、コミュニティ学習支援プランなどの科目群を設けていますが、日も浅く未だ十分な成果が出ていません。生涯学習には、社会の発展に寄与できるという側面もありますが、得たものが自己の内部に留まらず、どう社会参加と結びついていくか、そこが今後の課題です。

土橋 日本では今、地域をどう作っていくのかが大きな課題となっています。道州制の議論も始まっていますが、地方自治体あるいは地域のコミュニティが、自力で自分たちの地域を作っていこうというとき、そのエンジンとなる旗振り役は必要です。地方自治体にはノウハウもなくエキスパートも極めて少ないのです。放送大学が「エキスパート」認証者を上手く組織化して地域づくりの担い手として機能させる仕組みができれば素晴らしいですね。また、離職した団塊の世代に“学び直し”の動きが今急速に広がっています。そういう方たちに社会貢献としての具体的な活動を示すことができれば、「エキスパート」のような仕組みはもっと浸透すると思います。

比嘉 琉球大では学内に生涯学習センターを設け、専任教員もつけていくつかの科目を一般の方に公開していますが、受講者がなかなか集まりません。

土橋 生涯学習に既存の大学プログラムを使ってい

はダメだと思います。社会に出て経験や知識を積まれた社会人が受講しても面白いと思えるものにしないで



土橋 信男 函館大学教授

は。講師も通常の大学人ではなく、それ相応の人を。

司会 大学の付置施設としての生涯学習センターのお話がでしたが、“開かれた大学”という形は、国立大学の場合20年ほど前から始ま

っています。その間、社会教育の一環として地方自治体との連携というものはなされなかったのでしょうか。

大橋 社会教育は、その両極に自己充足的な部分と地域づくりの部分を含みます。自己充足的なものは大学で学べますが、大学は既存のものをただ提供するだけでアレンジしてこなかった。来る者は拒まずの“開放”のレベルで留まっていた。もっと生涯学習の方にシフトしなければいけない。一方、地域づくりの部分は、かなり専門的な知識が求められる時代になった。環境問題にしろ、教育問題にしろ、福祉にしろ。それなのに地方自治体には十分に迎えてくれる社会教育の人材がいない。いても人事異動ですぐ替わる。そのため住民は自分たちで体系的な学習を行う必要が出てきた、そういうことだと思うのです。この自己充足的なものと地域づくりの部分とを両方を結びつける仕組みがない。バラバラにやっている。その点、放送大学の「エキスパート」認証制度はとてもいい試みだと思います。一つ注文を言わせてもらえば、「エキスパート」にこそ面接授業が必要だと思います。地域の学習センターごとに実施すれば、地域づくりに参加する上での人間関係ができて、情報交換もできます。

比嘉 放送大学の学生は、主婦の方、リタイアされた方、と実にさまざまです。皆さん、地域に根を張っておられます。そういった、すでに地域の担い手となられている方たちが「エキスパート」認証を取得すれば、地域づくりなりボランティア活動なりに有効に活用できると思います。

学習センターに地域との橋渡しをする コーディネーターを

大橋 加えて、その学習センターにはコーディネー

ターの役目をする人が必要でしょうね。地域とあまり関わって来なかった人が「エキスパート」を取得して、市町村のドアを叩いても「何ですか、それ？」となってしまう。地域で汗をかいてないのに「頭が高い」なんて言われかねません。そこで地域事情に精通した人が、市町村なりNPOなりを回ってこういう人材がいますと売り込んでいく。そういう、人と組織を結びつけるコーディネーターはぜひ配置すべきです。

土橋 カナダの話の続きになりますが、ボランティア活動を支える人たちもボランティアです。日本でも最近増えてきたのが博物館の案内ボランティア。彼らと博物館の仲立ちをするコーディネーターもボランティアです。同じ仕組みが、今のコーディネーターの話にも応用できると思いますよ。“寄付文化”の根付いていない日本だからこそ、ボランティアをもっと活用すべきです。

大橋 日本ではボランティアの捉え方が狭く、労力ボランティアだけが求められがちです。大切なのはコーディネーター役をこなすオフィスボランティア。学習センターをもっとオープンなものにしてオフィスボランティアに来てもらうのです。地域に根ざす社会教育施設として公民館がありますが、人手がなくて困っています。そこへコーディネーターが事前に「エキスパート」認証取得者の存在を教えてあげます。同じように、全国23万人の民生委員と、5万人の保護司と、2.5万人の社会教育委員とつながれば、ずいぶんいろいろな事ができるはずですよ。

司会 これまでは生涯学習を「自分を高める」ものと捉えていました。今は“学んだ成果を社会に還そう”という考え方が強くなっています。

土橋 地方の場合、社会教育委員の方は長いことやっておられる。その方たちと、放送大学の「エキスパート」のような仕組みをリンクできれば、社会教育、ひいては地域づくりのためのさまざまなプランが生まれると思います。

大橋 地域づくりは、有用なヒトを地域づくりとどう結びつけるか、誰が橋渡しするのが要です。地方自治体から委嘱された社会教育委員の方たちに活躍してもらえば、地域づくりはもっと潤滑に進むでしょう。放送大学も、社会教育委員の大会に出席し

て放送大学にはこういう仕組みがあります、とアピールするなどされてはいかがですか。

何のために学ぶのか

司会 放送大学の学生へメッセージをお願いします。

土橋 私は学生に常々「君は何のために学ぶのか」と問いかけています。自分を豊かにするために学ぶ、それはそれでよい。でも必ず



司会: 岡崎 友典 准教授

学んだことは社会に還元しなさい、そうしなければ日本はよくならない、と。そしてどういう形で還元できるか、常に考えなさいと。同じ言葉を放送大学で学ばれている人たちにもエールとして送りたいですね。放送大学は中高年以上の方も対象としています。人生を積み重ね、生涯教育や地域づくりを身近な問題として認識されています。それだけに「社会への還元」はもっと具体的なはずですよ。

比嘉 全く同感です。放送大学にはいろんな方が集まります。准看護師の方が正看護師になるために勉強している。教員免許をもって教壇に立たれている先生方がさらに上の専修免許を取得しようと頑張っている。そして、リタイアされた方、主婦の方も地域づくりに何か役立てないかと学習しています。さまざまな方がさまざまな立場で、得た知識を社会に還元しようとされています。

大橋 従来の高等教育は「村を出て出世し、故郷に錦を飾る」ためのものでした。つまり「村を捨てる学力」を得ることを前提としていたのです。放送大学は高等教育機関でありながら、実は「村に居ながらにして学ぶ」ことができます。石垣島の話が出ましたが、島に大学という建物はなくとも107人の方が放送大学で学ばれている。その方たちは島にいて学びながら、島をどうするかを考えている訳です。だから社会還元につながりやすい。自己実現もいい、キャリアアップもいい。でも「居ながらにして学び、村を捨てない」、「村を育てる学力」を身につけているんだ、ということをきちんと自覚してほしい、と思いますね。放送大学は全国ネットでありながら、まさに“地域の大学”なんですよ。

放送大学はコミュニティ・カレッジの役割も

土橋 そういう意味で言うと、放送大学はアメリカのコミュニティ・カレッジに近いですね。地域のための地域住民の大学。アメリカの場合は、Liberal arts (教養) と vocational guidance (職業訓練) の2本立てですが、放送大学は教養学部ですので、Liberal arts 中心のコミュニティ・カレッジともいえます。

比嘉 ハワイ大学の場合、大学を構成する University of Hawaii System には、3つの4年制大学その他、7つのコミュニティ・カレッジが各島にあり、まさにコミュニティを形成し地域づくりを行っている。カワイ島は人口6.5万人ですが、カワイコミュニティ・カレッジには1,200人余の学生がいます。石垣市は人口5万人ですからコミュニティ・カレッジが成り立つ素地はあるのですが、少子化問題、財政の問題等があり大学の誘致には至っていません。

大橋 建物はなくともいいんですよ。石垣市の教育委員会がカリキュラムを組む。石垣島の少子化問題とかゴミ問題とか福祉とか。それを放送大学が単位として認める。そういう柔軟な取り組みが可能になれば、建物がなくともコミュニティ・カレッジと同じ機能・効果が期待できます。

土橋 大学を作るとなると通常は土地・建物がまず必要ですが、なくてもできるならこれはすごいことですね。つけ加えてもう一つ申し上げるなら、同窓会を組織することです。放送大学でも、卒業生同士の同窓会に終わらず大学が主体となって組織化すれば大きなことができると思いますよ。まず学習センターごとに始められてはいかがですか。コミュニティ・カレッジと同窓会のつながり。地域に学んで、それを地域づくりにいかす、ともに手を取り合って。素晴らしいことだと思います。放送大学に大いに期待しています。

司会 放送大学は、コミュニティ・カレッジの可能性も秘めているとお話ですね。放送大学に課せられた役割の大きさに改めて気づかされた思いです。もっと社会に貢献しなさい。そのためには学んだ成果と地域とを結ぶ仕組みづくりを、というご指摘もとても参考になりました。本日は貴重なご意見をありがとうございました。

「放送大学叢書」 いよいよ創刊



産業と技術 教授・附属図書館長
柏倉 康夫

待望久しかった「放送大学叢書」が、いよいよ創刊されることになりました。

放送大学は今年2009年4月で、開学以来26年目を迎え、この間におよそ二千科目の放送授業、印刷教材を制作してきました。1つの科目は原則として4年で更新され、各分野にわたって基礎となる知識や、最新の研究成果を提供してきました。

こうした教材は放送大学が生み出した最大の知的財産ですが、4年間で刷新されるために、その後は、学生の皆さんはもとより一般の方々の目に触れる機会がないのが現状でした。印刷教材については公立図書館などで所蔵し、広く読者に提供してくれるところも少なくないのですが、これについても開講期間がすぎると、書庫にしまいこまれてしまう例も多く、残念ながら参考にしたくても簡単には手にとれないきらいがありました。このために科目によっては、印刷教材がインターネット上で定価よりもかなりの高値で取引されているということです。これなども、放送大学の教材がいかに利用価値が高いかを示す例です。

放送大学の附属図書館には、過去のすべての放送教材、印刷教材が保存されています。それを眺めるたびに、これを再び世に出して、広く一般の人たちに活用していただくことはできないかと考えてきました。放送教材については、テレビ、ラジオともに再生機器が大きく変化してきましたから簡単にはいきませんが、印刷教材に関しては、著者の先生方に閉講後に生じた新たな知見を補筆していただいて新たな書物として再生すれば、多くの読者に受け入れられるのではないかと考えたのです。

こうした構想のもとに、昨年のなかがろ委員会を



第1回目の配本は3冊。
そのうちの1冊「茶の湯といけばなの歴史」

立ち上げ、放送大学叢書にふさわしい教科の選定を進める一方で、神奈川学習センターに学生の方たちにお集まりいただいて、叢書の可能性、読んでみたい分野、本の判型、活字の大きさ等々、読者としての期待や要望をうかがいました。マーケティング・リサーチを行ったわけです。その結果、「放送大学叢書」について強い手ごたえを感じました。こうしたプロセスを経て、今年3月には第1回の配本分の3冊が創刊されることになりました。

3冊は、熊倉功夫先生の「茶の湯といけばなの歴史」、長谷川真理子先生の「動物の生存戦略」、そして笠原潔先生の「音楽家はいかに心を描いたか」です。それぞれ開講中は、多くの熱心な受講者に支持されたものです。3人の先生方は、かつての印刷教材に新たな知見を加えてくださり、かつてこれらの授業をとられた学生の皆さんにとっても、新たに刺激を与えてくれるものとなるはずです。笠原先生は残念なことに昨年10月、お亡くなりになりました。57歳のお若さでした。同僚としてまことに痛恨の極みです。笠原先生は印刷教材をもとに、最後まで手を入れられ、原稿はお亡くなりになったあと、ご遺族から送られてきたフロッピー・ディスクに入っていました。

知の集成である「放送大学叢書」は、場所を問わずどこでも読めるようにとの要望にこたえて四六版とし、編集と出版は「左右社」をお願いすることにしました。最初の3冊に加えて、今後も続々と刊行するつもりですが、それには皆さんたちのご支援、具体的には購入していただくことが条件です。まずは手に取っていただきたいと思います。

どうか「放送大学叢書」をお支えください。

環境デザイン論('09)

社会と産業 教授 仙田 満

環境デザインとは都市、地域、土木、建築、造園、インテリア、プロダクトデザイン等を通貫するデザイン領域です。1960年代、それまでの建築、土木、造園等の分野を統合する学問分野として環境デザイン学は生まれました。現在、多くの芸術系、工学建設系大学で環境デザイン学が広く学ばれています。さらに21世紀に入り、地球環境の時代になって物、地域から地球までをカバーするデザイン分野として進化しつつあります。環境デザインとは「すでにある物語を大切に作るデザイン態度」と一言で言うように、歴史、行動、地域という3つの文脈から学び、展開するデザインです。

環境デザイン論の15回の講義は「総論」と「歴史から学ぶ」、「行動から学ぶ」、「地域から学ぶ」という4編により構成されています。そこでは従来の

工学的構築学を超えて、歴史、行動、文化という人文学的な領域を融合した人間環境学を指向しています。学問領域、デザイン領域として50年に満たない新しい領域ですが、関係性、統合性、参加性、調和性、持続可能性をキーワードとした新しい設計デザイン世界を展望しています。

地球環境の時代、身近な住環境のデザイン、子どもを元気にする成育環境デザイン、歩いて楽しい都市・街のデザイン、利用者の満足度と集客性を高める施設・環境デザイン、公的な空間と私的な空間をつなぐ廊空間デザイン、地球にやさしい地球環境建築等、多くのデザイン事例も紹介しながら、楽しく、元気になる環境デザイン論を講義します。



仙田 満教授

組織運営と内部監査('09)

社会と産業 准教授 齋藤 正章 北海道大学大学院 教授 (放送大学 客員教授) 蟹江 章

「内部監査」という用語を聞いて、皆さんはどんなイメージを抱くでしょうか。昨年は「監査法人」というテレビ番組もありましたから、企業の不祥事や不正を糾すのがいわゆる監査なのだと思う方も多いかもしれません。

不祥事や不正が表沙汰になると、その会社の看板に傷がつき、商品が売れなくなるばかりでなく、最悪の場合は倒産に追い込まれてしまいます。内部監査とはそうした事態にならないように、さらには会社がその強みを発揮できるように支援するための仕組みであるといえます。

組織を運営するためにはある種の規律が必要となってきます。組織が大きくなるほど規律に対する要求が高まり、また運用するのが困難であることは想像するのに難くないと思います。この規律を整備し



齋藤 正章 准教授



蟹江 章 教授

作用させるために内部監査が必要となります。頻発する企業の事故や不祥事によって内部監査への意識が高まってきています。

こうした背景を受けて、本講義は作成されました。制作に苦労した点は、内部監査というのは文字通り企業内部で行われますので、それをどう分かり易く伝えるかという所でした。これには社団法人日本内部監査協会から全面的な協力を得て、企業の内部監査の実態について映像で紹介することにしました。また、内部監査は企業だけに必要とされるものではないとの考え方から非営利組織の内部監査についても扱っていることも本講義の特色です。百聞は一見に如かずと申します。ご受講お待ちしております。

失敗予防の住まい学('09)

千葉大学 名誉教授 (放送大学 客員教授) 服部 岑生 千葉大学 教授 (放送大学 客員教授) 上野 武



服部 岑生 教授

上野 武 教授

マンションの構造偽装問題(2005)は、大きな住まいづくりの事件でした。リフォーム詐欺は、今でも大きな社会問題です。住まいづくりは、楽しい夢を実現することですが、しばしば失敗が起こります。「失敗予防の住まい学('09)」は、市民が住まいを求める場合や、自分で作る場合などにおいて、住まいづくりで失敗しない方法を学ぶ授業です。

住宅を作る技術や売買する契約の法律は、それぞれ専門家がいて市民をサポートする専門領域です。授業では、技術や法律の専門の知識を易しく解説することを基本とします。これまでの住宅学を見直して建築主になる市民と専門家が協力する新しい方法を提供します。

住まいの失敗というと、まず技術上の失敗がありますが、契約や詐欺による人間が関係する失敗もあ

ります。授業では建築主の住まいづくりに関する知識が無かったために起こる失敗、建築主が住まいづくりを専門家に任せっきりで起こる失敗など、建築主側が原因の失敗を重視します。

以上に、現代の技術で起こる失敗、暮らし方で起こる失敗、古い住まいの失敗などを加えて、住まいの失敗が少ないというイギリスの事情をトピックスとして学びます。住まいの失敗を予防する方法は、建築主の協力、専門技術者の誠意、住宅技術の発達や住宅に関する社会制度の整備など、総合的な課題です。授業は、住まいづくりのいろいろな立場に視点を置きながら、市民の目線の失敗を予防する住まい学を講義します。

思春期・青年期の心理臨床('09)

西九州大学 教授 (放送大学 客員教授) 西村 喜文 心理と教育 准教授 佐藤 仁美

『思春期・青年期の心理臨床』の世界へようこそ。本科目は、主任講師の研究仲間・仕事仲間・修論ゼミ修了生・面接授業でご協力いただいた学生の皆様の力を得て完成しました。この紙面を借りまして、厚く御礼申し上げます。

持ち味を生かし合って存立する我々を結び付けているキーワードは、“立体Collage”です。

思春期・青年期のころとからだの変化を何かにとえるならば、そのひとつにCollageという言葉が挙げられます。思春期・青年期には、それまで作り上げてきた自分をいったんばらばらにして取捨選択し、それにあらたなものや異質なものを加え、再構成し、大人としての自分へと生まれ変わっていき

ます。この時期のころとからだは、生まれて間もない新生児・乳児期に次いで、大きな作業をする時期ともいえるでしょう。わからないけど、いつの間にか・・・、思うように行かない、もどかしい、どうにもならない・・・。そんな思いに身を投じ、ぶつかり合ってはくっつき、落ち込んでは有頂天になったり・・・。そうしながら自分の立ち居地を見つけ、自分のベース、バランスのとり方を獲得していくのが、思春期・青年期です。思春期・青年期の少し先を歩むものとして、今、この時代を生きる若者たちに、そして、彼・彼女たちをとりまく大人たちに、ささやかではありますがエールを送る時と場であったらと思っています。

北東アジアの歴史と朝鮮半島('09)

人間と文化 教授 吉田 光男

日本にいちばん近い地域でありながら、あまりよく知られていないのが朝鮮半島の歴史です。この講座では、古代から現在に至るまでの朝鮮半島が歩んできた歴史を、おおよそ日本列島から中国東北部（東北地方・華北・内モンゴル）にわたって広がっている北東アジアという国際環境の中において通史的に見ていきます。

歴史は一つの国や地域の中だけで完結するものではありません。地域がもっている個性（内部条件）と、さまざまな国際環境（外部条件）とが絡み合っ作られていくものです。朝鮮半島の歴史形成にとって、もっとも基礎的な外部条件となったのは、北東アジアという地域でした。平和な時も危機の時も、北東アジアとの関係は常に朝鮮半島の歴史を動かしていく最重要ファクターの一つでした。初期国家か

ら、三国（高句麗・新羅・百済）、高麗、朝鮮、近代、現在と歩んできた朝鮮半島の歴史を、国内的要因

と国際的要因という二つの側面から複合的にとらえてみようというのが本講座の眼目です。

一方で、日本の歴史形成にとっても朝鮮半島との関係は非常に重要な意味をもっています。私たちが住んでいる日本という地域の歴史や文化を考えるうえでも、朝鮮半島の歴史に対する理解は欠かすことができません。この講座を通じて、北東アジアの中における朝鮮半島の歴史を学びながら、日本という地域の歴史についても考えていただきたいと思います。



吉田 光男 教授

空間とベクトル('09)

学習院大学 教授 松本 幸夫
(放送大学 客員教授) 学習院大学 教授 川崎 徹郎
(放送大学 客員教授)

空間の幾何学を講義します。幾何学であつかう長さや角度はベクトルの「内積」を用いて表すことができます。また、内積を変えない変換を合同変換といい、合同変換でうつりあう図形を互いに合同な図形といいます。このように、ベクトルの内積は幾何学において重要な役割を演じます。

この講義では、「内積」をキーワードとして幾何学のいろいろな話題を解説します。

はじめに合同変換の分類、曲線論、曲面論を展開します。つぎに、ベクトル場の微積分、いわゆる「ベクトル解析」を解説し、そこでも内積が不可欠であることを見ます。最後に、通常の内積と異なる「擬内積」を伴ったミンコフスキー空間が非ユークリッド幾何と相対性理論を考える枠組みを提供することを学びます。



松本 幸夫 教授



川崎 徹郎 教授

曲線、曲面、ベクトル場はいずれも微分可能な関数を用いて表すことができます。ですから、「微分」は「内積」とともに、幾何学の重要なキーワードです。この講義で、内積と微分が不思議なくらい相性がよいということを感じていただければ幸いです。

最後に論じる「非ユークリッド幾何」は内積と微分の絶妙なコラボレーションから生み出された美しい幾何学といえるのではないのでしょうか。このように非ユークリッド幾何を具体的に構成することによって、「平行線公理の成り立たない幾何学」を実感していただくことができると思います。

生活健康研究('09)

生活健康科学プログラム 教授 藤原 康晴 生活健康科学プログラム 教授 本間 博文

この科目のキーワードは「生活の質の向上」です。「衣食足りて礼節を知る」という諺がありますが、経済社会の発展に伴い今日の私たちの衣食、生活環境は、量的にはほぼ足りるようになりました。しかし、それとは裏腹に、ひずみ、不調和、矛盾、不安、孤立などが顕在化しており、生活の各分野で質的な向上を図らねばならない課題が多く浮き彫りになっています。

概して量的なものは、その良否、優劣等が明確で、かつ、多くの生活者に共通しており、それを充足するのは比較的簡単ですが、質的なものは生活者個人に特有のものであることが多く、その方策を考案するのは容易ではありません。これに取り組むのがこの科目です。生活者の家族や地域の人々等の「人的環境」、住居や生活用製品などの「物的環境」、「保

健医療環境」、
「社会福祉環境」

そして「生活者

個人の状態」を対象に、それぞれ各分野を専門とする講師が生活の質との関連を説明します。とりわけ、これらの環境において、生活の質の向上に強くかかわっているのが「つながり」です。このつながりが家族、地域、職場等で希薄化して生活の質の低下をもたらしており、それぞれの場において、つながりを深めていくことが必要です。この科目の履修がきっかけとなり、子育て、高齢者福祉、災害や防犯、環境保全などの活動をととして地域におけるつながりの構築に取り組む生活者、そして、生活、健康、福祉の総合的な視点から生活の質の向上に向けた諸課題に取り組む生活者が一人でも多くなるのを期待しています。



藤原 康晴教授



本間 博文教授

異文化の交流と共存('09)

文化情報学プログラム 教授 工藤 庸子

地域文化研究、国際政治、歴史、文学、言語学など、多角的な視点から、「異文化の交流と共存」について考察する教材です。対象となるのは大航海時代から現代まで。新旧の大陸とアフリカ、アジア、日本までを視野に入れることとなりますが、世界史を復習しようというわけではありません。

大学院科目は、具体的なテーマをととして、議論の手続きや検討の方法を身につける場にしたいと考えます。レポートや論文を執筆する「技法」を学ぶという点で、実践的な性格をもちますが、それは役に立つ最小限の知識を習得するという意味ではありません。むしろ「問題提起型」の講義ということになるでしょう。

とりあげられるトピックは、文明を自任してきた欧米世界の諸問題、これに対峙するイスラムの抵抗運動と近代化の経緯、政教分離、奴隷制、植民地化、移民、

言語政策、多文化主義など、多岐にわたります。さらに、グローバル化した現代世界を捉えるためには、歴史をさかの

のぼり、大きな展望を立てることが必要です。そこで、いささか欲張りな問題構成によって全体が拡散しすぎぬように、第Ⅰ部「宗教と文明」、第Ⅱ部「人種と民族とジェンダー」、第Ⅲ部「言語と文化」という枠組みを設けました。

「人文学」humanitiesとは「人間の本性」human natureについて考える学問であるといわれます。「学問」である以上、期待されるのは感想やアイデアを披露することではありません。文献をふまえて考察する——これこそが人文学の「王道」です。教材は、そのための思考法と表現法を学ぶ手引きとなるでしょう。



工藤 庸子教授

放送大学エキスパートは、平成21年度から23プランに。



放送大学エキスパートは、平成20年12月現在の
認定証取得者が3,256名に達しました。

平成21年度からは、これまでの22プランに「工学
基礎プラン」を加え、全23プランとなります。

詳しい認定取得条件は、「科目群履修認定制度（放
送大学エキスパート）について（平成21年度）」（学
生募集要項、科目登録申請要項、継続入学用書類等
に同封の資料です。また学習センターにも配架して
あります。）をご覧ください。また、これまでの22
プランについても、平成21年度に授業科目群が変
更となっている場合がありますので、同パンフレッ
トで最新の条件をご確認ください。

エキスパート取得者の内訳

平成20年12月現在

認定プラン名	取得者数
1 健康福祉指導プラン	753
2 福祉コーディネータプラン	294
3 社会生活企画プラン	224
4 食と健康アドバイザープラン※	9
5 心理学基礎プラン	484
6 社会探究プラン	91
7 市民活動支援プラン	141
8 実践経営学プラン	100
9 ものづくりMOTプラン※	6
10 次世代育成支援プラン	289
11 コミュニティ学習支援プラン※	0
12 異文化コミュニケーションプラン	67
13 アジア探究プラン※	31
14 日本の社会・文化探究プラン※	21
15 宇宙・地球科学プラン	26
16 生命科学プラン	190
17 環境科学プラン	82
18 社会数学プラン	29
19 エネルギー・環境研究プラン	45
20 芸術系博物館プラン	122
21 歴史系博物館プラン	248
22 自然系博物館プラン※	4
合計	3256

※は平成20年度に新設したプラン

エキスパートを社会活動に活かしている方をご紹介します。

放送大学に在学中の真船義行さん（福島県鏡石町）は、昨年4月、エキスパート「社会企画士」の
認定証を取得しました。真船さんが、河北新報「座標」欄に連載している記事（平成20年12月23日
版）を要約してご紹介します。



活動展開する「人」が鍵

通信制の放送大学に平成18年「エキスパート＝科
目群履修認定制度」がスタートした。「健康福祉運動
指導者」「博物館活動支援」など23のコースがあり、「興
味ある分野を集中して学びたい」そのような要望に応え
た、学校教育法に基づく「放送大学独自の」制度だ。

「学び」を「カタチ」にする。そして、学んだ成果を社
会で活用する際に、その認定証を専門知識の証明と
して活用する。私にぴったりの制度が誕生した。早速、「社
会企画士」に挑戦し、今年4月に指定科目の履修を満
たし「認定証」の交付を受けた。「専門知識を学び、社
会活動などに役立てたい」と考えている方にはぜひ動
めたい。10月1日現在、認定件数は3,000件を超えている。

実際に「社会企画士」としての私の活動事例をここ
では紹介してみたい。「しらかわ広域ビジネスフェスタ2008」。
地元商工会などが主催したイベントで、10月11日、福島
県西郷村の会場は約6,000人の来場者でごった返した。

54の企業・団体が結集し、販路拡大と異業種間交流を
図ることが目的だ。また出展企業の製品やサービスを
紹介することで、一般の方にも地元企業を知ってもら
う絶好の機会となった。私はプロデューサーとして、出展
者にフェスタの趣旨の徹底に努めた。後日、これがき
っかけで「訪問がスムーズにできた」「商談が進んでいる」
等々、成果を裏付けるうれしい報告が続々届いている。

昨今、団体・地域などにおいて、課題解決型のコーディネ
ーターが強く求められている。これらの期待に応える企
画力や実践力・経験を備え、先頭に立って活動を展開で
きる人材。これが私の「社会企画士」のイメージである。
地域の「チカラ」を生み出すには、イベントの実施や、体
裁を整えただけでは、成果はおぼつかない。「計画」「実
行」「点検」「改善」のサイクルを回し続ける。そして、
継続的な発展が図れるような「しくみ」を構築し、粘り強
く活動していく人材こそが求められる。この要請に応える、
熱い思いを持った「社会企画士」が各地、各分野で続々
と誕生していくと、面白いことになると思う。

今後もエキスパート認定証を取得され、さまざまな分野でご活躍されている方をご紹介します。

この様に、認定証を活かしているという方は、放送大学教務部学習センター支援室（福島）までぜひご連絡ください。

《サークルうえるかむ》 の紹介

《うえるかむ》は、海外の大学から、放送大学を訪問してきた学生に「日本へようこそ」の意味をこめて、平仮名で命名しました。設立当時は、よくタイやカナダから学生の訪問があり、その都度、大学本部職員の方が歓迎会の学生を集めるのに苦労されていたので、少しでも役に立てるよう平成7年に立ち上げました。どの学習センターの学生も加入することができます。会長が今、埼玉学習センターに所属なので、本部が埼玉になっています。しかし、その後、円高の影響で海外からの学生の訪問が途絶え、現在はこちらから海外のオープンユニバーシティを訪問しています。そして、訪問先の大学で学生とミーティングや互いの文化を紹介し、親睦を深め、放送大学の国際化に役に立ちたいと思っています。

最初、来日予定のタイの学生たちが直前に来日中止になったので、当時の小尾学長に紹介をいただき、平成8年、希望者20名ほどでタイのスコタイ大学を訪問し、大歓迎を受けました。平成9年には台湾の空中大学訪問を企画し、国立師範学校もぜひと、訪問依頼があり、双方の学校で茶道、華道、折り紙、踊りなども披露しました。平成13年に放送大学の発祥地である、イギリスのオープンユニバーシティを訪問し、本場の歴史の凄さ、BBC放送を抱えた广大

な場所に感動しました。そして日ごろの英語力をフルにいかして、オペラの観劇、地図を片手に地下鉄を自由に乗り継いでの観光を楽しみました。平成17年に訪問したインドネシアのテルブカ大学は20周年記念のセレモニーにあわせての歓迎でした。そのステージで日本の文化を披露しました。以前、神奈川でゲスト講演をされた先生がインドネシアで勤務中とのこともあって、スラバヤの語学学校をも訪問、地元の学生たちとバスで観光を楽しみました。そして、昨年、ずっと交流が続いているタイに13年ぶりに再訪問をしました。そこでは前回、訪問した時の記録ビデオが上映され、気配りの届いた歓迎に感動の日々でした。訪問後は必ず本部で学長に報告をしています。年に一度の総会は本部のセミナーハウス一泊で勉強会や親睦会を兼ねて行い、年間行事を決め、顔合わせの勉強会や親睦会を楽しんでいます。関東の学生だけでなく、地方の学生も会員になってお互いの学習センターと交流すればもっと面白くなるかと思っています。

今、放送大学も国際化に力を入れているので、われわれ学生も大いに幅を広げて文化交流をしていきたいと思っています。(連絡先：埼玉学習センター所属 増岡)



タイを訪問



台湾空中大学での歓迎



イギリスオープンユニバーシティ構内見学



学長への報告

タイスコタイ大学で

都市の中の杜にある学び舎「宮城学習センター」

仙台は、「杜の都」「学都仙台」とよばれ、スポーツ・芸術も盛んな都市の文化機能を有しながら、海洋性気候により夏の熱帯夜や冬の雪害などの心配の少ない、過ごしやすく、かつ、海・山・川が揃い自然にも恵まれた街です。

宮城学習センターは、仙台駅から徒歩圏内の街の中心部にありながら、大正時代に建築された東北帝国大学生物学科の赤レンガの洋風校舎を改修して使用しているため、レトロな雰囲気を楽しむことができます。周りには生物学教室として集めた、当時の巨木・古木を含む多くの種類の樹木に囲まれた環境にあります。この美しい教室で面接授業を受けてみませんか？



広瀬川に程近い、自然に囲まれた教室で開催される面接授業



宮城学習センター所長・職員



自然の美しさを視野に入れながら学習する環境になっています。

活発なサークル活動

宗教学研究会、気象研究同好会、女性サークルMsなど宮城SC独特のサークルのほか沢山のサークルが活動しており、各々自分流の学びを楽しむ人々が集っています。



みんなで、安全に自然を満喫しています。



楽しく、元気に行動しています。

近隣の野山を楽しむサークル「宮城・山の会」は毎月1回のペースで登山・ハイキングを楽しみ、訪問した地域の文化に触れながら心身のリフレッシュと学生間の親睦を図っています。



登山をあきらめた帰路、道路の隆起で足止めとなりましたが、何とか当日中に帰宅できました。

平成20年6月14日の岩手・宮城内陸地震当日は、大被災地の栗駒山へ登山を計画し、被災時間の8時40分頃には、栗駒山登山口に2〜3キロに迫っていましたが、危機一髪で被災を回避できました。

改めて自然災害の怖さを肌身で感じ、思い知らされた次第です。

自然を満喫する特別課外ゼミ「竹炭造り」

材料の切り出しから始めた3週間にわたる課外ゼミには、20名の学生が参加しました。夜通しの作業の成果は、美しい炭ができたことに加え学生間の強い結束を生み出したようです。



竹炭造り1:切り出し作業



竹炭造り2:炭焼き風景



竹炭造り3:出来上がった竹炭



竹炭造り4:炭による芸術作品

仙台は昔から学生が多いことから学都とも称されていました。また、沢山のプロスポーツの本拠地があるほか、ジャズやクラシックのフェスティバル、演劇、アートの祭典、七夕などの祭りなど、様々なイベントで四季折々に楽しむことができます。

特に今年は、北海道・東北ブロックの連携面接授業「奥の細道を辿る」も実施されます。

是非、仙台へお出掛けください。

宮城学習センター

仙台市青葉区片平2-1-1(東北大学片平地区内) 〒980-8577
仙台駅から徒歩で15分程度 電話:022-224-0651

楽しく学び、集える「滋賀学習センター」に

滋賀学習センターは龍谷大学瀬田キャンパスの4号館にあります。JR瀬田駅からバスで約10分ほどの所です。センターは、近江八景の一つ「瀬田の夕照」として知られている丘陵地に立地しており、遥かに琵琶湖や比叡山、比良山系が望めます。近くに県立美術館や県立図書館等もあり、滋賀県が誇る学術文化ゾーンの一部を占めています。

春は桜、秋は楓に銀杏と、四季折々の樹木の美しさも満喫できます。豊かな自然に恵まれ、勉学には格好の、素晴らしい環境の下で、現在約700名の学生さんが学んでおられます。



滋賀学習センター所長・客員教員・職員

面接授業

面接授業では、滋賀県の特徴を出すべく、近江の文化と歴史、琵琶湖・環境問題にかかわる授業を毎学期一つは開設できるようにと心がけています。比叡山延暦寺でのセンター外授業が大変好評でしたので、2009年度第1学期には長浜市の協力も得て「北近江の戦国時代史」を長浜城歴史博物館で開設します。秀吉と浅井三姉妹の話が中心の授業ですが、小谷城跡、姉川の合戦と賤ヶ岳の合戦跡も訪ねる予定です。関心のある方はどうぞお越しください。

勉強会



客員教員の先生方には、面接授業や学習相談以外にも、ご専門の分野のテーマで勉強会をお願いしております。私も「会社とは何か」とい

うテーマで勉強会を開いています。豊かな社会経験をお持ちの上に、なお篤い向学心にあふれる学生さんとの勉強会を、私自身が楽しんでいます。こちらがいろいろと教えていただくこともあり、放送大学ならではの貴重な経験をさせてもらっています。



サークル活動

滋賀学習センターには、現在6つのサークル（学友会（かいつぶり）、心理学サークル、山遊会、みずとりの会、テニス愛好会、おまつり漫訪）があり、延べ約300名の方が参加され、それぞれ個性豊かに、楽しんでおられます。代表的なイベントに、学友会さんの秋の文化祭があります。書画や彫刻などの力作の展示から、講演会や映像観賞、茶話会等盛りだくさんの楽しい催しが用意されています。



私たちのセンターでは、60歳以上の方が一番多く、学びと遊びに意欲的に取り組んでおられます。教職員一同も、和気藹々とした雰囲気、"楽しく学び、集えるセンター"にと心がけています。ぜひ一度お越しください。お待ちしております。

滋賀学習センター

大津市瀬田大江町横谷1-5(龍谷大学瀬田キャンパス内) 〒520-2123
JR瀬田駅前からバスで約10分 電話:077-545-0362

退任の辞

産業と技術 教授 柏倉 康夫
放送大学附属図書館 館長



館長をつとめた附属図書館で、毎朝、目にする光景があります。9時、小椋桂氏に作曲していただいた応援歌「人生の賛歌」を流し、正面の扉をあけると同時に、20人を下らぬ人たちが挨拶とともに入館してこられます。こうした光景が夏の暑い日も、木枯らしの吹く冬も繰り返されます。おそらく50の学習センターでも同じだと思いますが、こうした姿から、どれほどの励ましと勇気をいただいたか知れませんが、こうした姿から、間違いなく9万人の学生の方たちの熱意とエネルギーです。

放送授業、面接授業、そして大学院のゼミと、大勢の学生諸兄（姉）と一緒してきました。放送大学を去るに当たってお一人お一人の顔が浮んできます。充実した7年間を過ごすことができたのは、皆様方と触れあえたお陰ですし、よき同僚の先生方、職員の方々の賜物です。本当に有難うございました。

これからは自由な時間をつかって執筆に専念したいと考えています。さしずめ書きたいテーマが3つほどあり、当分は退屈しないはずで。皆様のご健勝をお祈りいたします。

このたび大過なく…

宮城学習センター 所長 大橋 英寿



「お陰さまで、このたび大過なく…」と、定年退職を迎えた長老たちが送別の壇上で一様に挨拶されるのを、若いときには、これは決まり文句なのだと軽く聞き流しておりました。ところが自分が50歳、60歳と歳を重ね、いや応なく役職に巻き込まれるにつれて、大きな過失なく定年を迎えるのが、いかに大変なことなのか、いかに至難なことなのか、これは他人事ではないぞ、と切実に感じるようになりました。

もっとも、「大過なく」と挨拶される先輩たちの中には、たしかに大過はなかったかもしれないが「中過」くらいはあったと思われる先輩も、やはり「お陰さまで大過なく…」と挨拶されて去っていくのに気づきました。そうか、大過の有無は本人の主観的な判断次第なのだと少し気が楽になりました。そういう意味で、私もまた、お陰さまで、このたび大過なく最終定年を迎えることができました。厚くお礼を申し上げます。

提言を一つ。放送大学の強みは、全都道府県に50の学習センターがくまなくあり、さらに7つのサテライトスペースをもっていることです。加えて、学習センターから隔たった離島や市町村の図書館などに放送教材を備えた「再視聴施設」があり、学習の利便や地域の学生諸氏の交流に役立っています。現在その数はまだ51ほどですが、これを全国の隅々にまで増やしてはどうかというのが提言です。そのためには学生諸氏による市や町への積極的な働きかけがぜひとも必要です。再視聴施設を飛躍的に増やすことでさらに基盤を固めて、放送大学が一層発展することを願ってやみません。

拡がってきた私の教育研究分野

生活と福祉 教授 藤原 康晴



この10年ほどの間、専攻分野を開かれたとき、相手によって少しずつ変えて返答してきました。駆け出しの頃は、衣服の材料の繊維について研究していましたが、担当科目との関係で、布、衣服そして着装まで取り扱うことになりました。その都度、それらの分野を最初から学ばねばなりませんでした。このことが放送大学において、衣服学の自然科学系および社会科学系の授業科目の作成に大いに役立ちました。

一昨年作成しました「変動する社会と暮らし」、今年度作成の「生活健康研究」は、今日の社会が求めている生活、そしてこれからの生活を主題としており、ますます分野が拡がってきました。こうした広い分野の科目作成にこれまでの教育研究分野を活かすことができたことは大変幸運でした。さらに、これらの科目作成に多くの示唆を与えていただいたのが「生活と福祉専攻」の先生方でした。カンファレンス室ではほぼ毎日、昼食をともにしながら先生方とお話をする機会をもつことができ、教材作成部会（科目作成に当たり、担当講師による打ち合わせ会）を何回も開催する以上の資料を得ることができました。

なお、「生活と福祉専攻」の先生方のこの昼食会は、これまで何年にもわたって継続しているよきコミュニケーションの場であり、大学内の業務から時事問題に至るまで和気あいあいの楽しいひとときでした。この和やかな「生活と福祉専攻」に席をおき、教員生活を終えることのできるのが無上の喜びです。

退職の挨拶

産業と技術 教授 吉森 賢



放送大学とは96年伊東光晴先生の推挙により経営学の客員教授を奉職して以来今年で13年になる。その内今日に至る5年間は専任教員として活動することができた。この機会を与えて戴いた先生方に心からお礼申し上げる。

専任教員としてはラジオ科目一科目、テレビ科目二科目を単独で担当したのでかなり忙しかった。最終年度は本を書くつもりでいたが、後継科目二科目を齋藤、原田両先生と共同制作することになった。したがって最後まで様々な締切日に追い回される日々が続いた。

しかし本学に赴任する前から5年間でやるべきことは決めており、これらをすべて実現できたので満足している。科目制作のための海外の取材活動において欧米の研究者や経営者に会って意見を聴取できたことは貴重な経験であった。特にテレビ教材はおそらく日本のどの大学でも実現困難であろう。また多様な職業、経験、年齢の院生とのゼミ、地方の学習センターにおける面接授業も現場を知る機会となり、勉強になった。後悔があるとすれば満足できる収録講義はほとんどないことである。また異なる分野の先生がたとの交流がほとんどできなかった。本学はイギリスのオクスブリッジのカレッジに似たところがあり、人文、自然、社会の学問領域の先生方が一つの教授会に集まることができる。これはと思う先生と近づきになり、自分の視野を広めることができなかったことが心残りである。

最後に本学の更なる発展を祈念する。

退任のごあいさつ

人間の探究 教授 姫野 昌子



ついこの間、着任の挨拶を書いたような気がします。もう8年もたってしまいました。日本で唯一のユニークな大学で得がたい経験をさせていただきました。

初めは学生の姿がないキャンパスにはなじみませんでした。やがて卒業研究の指導や面接授業、大学院のゼミを通し学生さんたちの「存在」が実感できるにつれて楽しくなってきました。どの方も、職場や家庭で数々の問題を抱えながら真摯に学習に取り組んでおられ、いつも頭の下がる思いがしました。特に、院生の場合は科目履修のほかに論文執筆という大仕事があります。その苦勞は並大抵ではありませんが、論文完成後は見事に变身されます。自らの手で研究成果をまとめたという自信が内面的な輝きとなって現れるのでしょう。

放送大学の使命は、まさに年代、職種、地域をこえ、学びと研究の種をまくことにあると思われます。「知の喜び」に目覚めた人々こそ、国の財産となっていくのです。教員生活の最後に、このような価値ある仕事に関われたことを感謝しています。

裏で常に支えてくださった事務の方々、ゼミや公開講演でお世話になった学習センターの方々、番組制作で協力くださった現場スタッフの方々、すばらしい同僚の先生方、そして、さまざまな所で出会えた学生さんたちに心からお礼を申し上げたいと思います。

お預けの卒業証書

人間の探究 准教授 大石 和欣



瞬く間に過ぎ去ってしまった7年弱の放送大学生生活だった。全力投球した分、大変な時もあったが充実した放送大学生生活であったように思う。放送教材、印刷教材の制作はもちろんのこと、カリキュラム改編やインターネット教材制作などさまざまな裏方仕事も毎日を変化に富んだものにしてくれた。

だが、もっとも楽しかったのは学生の皆さんと会えたときであろう。足立、千葉、埼玉と異なる3センターでの勤務を通じて多くの学生さんと接することができ、少なかったが呼んでいただいた全国の面接授業には全て出かけ、沖縄(3回)、北海道(3回)、静岡(2回)、高知、大阪、富山、茨城の学生さんたちと直接話げできたのはいい思い出である。埼玉SCで続けた読書会では、人生経験豊富な学生さんこそがむしろ教師で、「文学を読む」ことの深さと同時に怖さを思い知った。総じて、学生の皆さんに育てられた7年間であったと自覚している。「放送」という非日常空間に所属している分、学習センターという学びの「現場」の大切さを教えてもらった。

今後は違う形で教育・研究の現場に専念するはずだったが、どうやら未修単位が残っているために放送大学の教員として卒業証書をもらえないらしい。「実践英語('10)一映画で学ぶ」の制作と北海道SCおよび静岡SCでの面接授業をもう一回ずつ残してしまった。わざとだと疑われても仕方がないが、客員教員としてテレビと教室で皆さんとまた会えるのを楽しみにしている。

大阪同窓会にご入会ください

大阪同窓会代表世話人 原田 美紗子さん

大阪同窓会は平成12年に設立され、現会員数は307名です。設立目的の第1は会員の親睦ですが、多くの会員が再入学し、勉学に励んでおられる現状を考えると、大阪学習センターとの協力は勿論、在学生との交流も欠かせません。当センターとの話し合いにより、学籍のない卒業生に「卒業生証」が発行されることになっていますから（大阪学習センターのみのサービス）、機会を見つけて是非ご来校下さい。

定期総会終了後、開催した当センターとの共催による公開講演会「よい人間関係を築くためのコミュニケーション術」では大坊郁夫先生（大阪大学教授、放送大学客員教授、日本社会心理学会会長）が話される円滑な人間関係を構築するためのコツやスキルトレーニングに、一般社会人を含む113名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

初めて開催された河堀祭に本会は「ロボット展」と題し、メンタルロボット「パロ」や二足歩行ロボットなどの展示と講演会「ロボットの歴史」を開催しました（講



師：（株）ジャイロウオーク代表取締役石古暢良氏）。「パロ」の可愛い表情や鳴き声、じっと見つめる大きな瞳は「連れて帰りたい」と言う声が聞かれるほど魅力的でした。

秋季恒例のミニ研修旅行は、源氏物語一千年記に惹かれて、「宇治十帖」の古跡巡りをしました。旅行記その他行事はHP「放送大学大阪同窓会」で紹介しています。

学生の皆様！卒業後は同窓会にご入会下さい。共に楽しみましょう。会員の皆様！本会行事に積極的に参加して旧交を温めて下さい。一人一人の小さな力の結集が本会を発展させ、母校の発展を促します。

山形同窓会の目標は会員数をふやすこと

山形同窓会代表 渡辺 寿一さん

山形同窓会は、平成13年10月に結成の任意団体である卒業生連絡会の発展的解消をはかって、一昨年の9月1日に東北では2番目ながら、全国では36番目に設立されました。その準備の段階では、当初会員数を50人程度と見込んでいたのですが、案に相違して入会者は22人に止まってしまい、「最初は少なく、次第に多く」「急ぐな、されど休むな」をモットーにスタートしたのです。

設立後まだ2年目の現状は、会員数こそ3回の学位授与式を経て37人になりましたものの、活動状況は僅かな会費収入と会場確保上の制約から、未だに模索が続いています。そんななかで、本年度は定例総会や会報の発行の

ほか、所長を囲む懇談会、映画鑑賞会、卒業祝賀会や時宜に応じた4回の懇親会を開きました。しかし、このようなことは大小の差こそあれ、多くの先発同窓会がたどった道ではないでしょうか。



現時点での目標は、なによりも会員を増やすこと…。そのためには、①未加入の同窓生と、②会員予備軍である在校生両面への働きかけ、③将来を見越した学生数増加への協力を行っています。①については常時心がけるとともに、②には多くの開催行事を学生サークルと共催して、交流をはかりました。③は「会報」を学生募集期間に合わせ、7月1日（母校の創立記念日）と1月1日（元旦）に発行し、学生募集説明会の参加を含めて会員に協力を呼びかけています。

最後に、同窓会の全国化が進められているいま、未設置の多い東北から次に誕生する同窓会はどこのなのでしょう。なにかお手伝いできたらと思っているのですが。



笠原潔先生を いた 悼む



放送大学教授 青山 昌文

笠原潔本学教授は、2008年10月28日に、2年間に亘る闘病ののちに御逝去されました。(以下、親しみを込めて、昔のように「笠原さん」と呼ばせていただきます。)

笠原さんは、1990年に放送大学に着任されました。前任校の名古屋芸術大学では、古代中国の音楽思想について文献学的な研究をされ、放送大学の前任者の高名な作曲家・音楽学者である柴田南雄先生の晩年の学統を受け継がれて、西洋と東洋の両方の音楽について語ることの出来る音楽学者として、本学に着任されたのであります。

着任後、笠原さんは、音楽考古学の分野と、日本における西洋音楽流入史の分野において、見事な御研究をなさいました。特に前者の分野においては、日本各地の教育委員会から、出土した楽器についての見解を聞かれるほどにも権威ある存在として、御

研究を推進されたのであります。

東京大学教養学部教養学科フランス科を、同じ年に共に卒業し、1990年以来20年近くも同じ職場で、共に芸術について講義して参りました私にとりましても、笠原さんの御逝去は、あまりにも辛く悲しい出来事です。

古代ギリシアには、ソーマセーマ説があります。肉体(ソーマ)は魂にとって、魂を閉じこめている墓(セーマ)であり、人間の魂は、死によって、肉体の束縛から解放され、天に向かって自由に羽ばたいてゆく、という説であります。笠原さんは、2年間に亘る病との闘いを、実に見事に闘い抜かれました。今は、天の高みから、放送大学と日本の音楽学界を見守っていただけることと思います。

笠原さんの御冥福を心からお祈り申し上げます。



The Open University of Japan

からのご案内

「大学の窓」は学生生活に役立つ情報を 毎週お伝えする15分の番組です!

全国各地で学ぶ学生さんへのインタビュー、科目の紹介、学習アドバイス、教員が研究を語るコーナーなど、内容盛りだくさんでお届けします。ぜひご覧ください。

放送時間 (テレビ・ラジオ)	12:45~13:00
	19:45~20:00
	23:45~24:00(日・月のみ)

*毎週水曜日に内容を更新。
毎日放送しています。

4月からの主な放送予定

テレビ

4月1日~ 2009年度第1学期開講にあたって
石 弘光 放送大学長

4月2日~ 平成20年(2008年)度学位記授与式

4月8日~ 応援します 放送大学の学び

4月15日~ 入学者の集い

4月22日~ That's放送大学「私の研究セレクション」

4月29日~ 大学院の話題

ラジオ

アナウンサーが週替わりで
番組を担当。

4月は「知得!放送大学」。
学びへのアドバイスなど中
心にお送りします。



全国の学生さんを訪ねて
インタビュー



授業内容の紹介や、
教員からの楽しいお話し。

●番組へのご意見・ご感想は...

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11

FAX 043-275-6479

メール mado@u-air.ac.jp

「大学の窓」係まで。



平成21(2009)年度大学院 文化科学研究科(修士全生)入学者選考結果

教務課

修士の学位取得を目指す大学院修士全生に453人が合格しました。

プログラム名	生活健康科学	人間発達科学	臨床心理学	社会経営科学	文化情報学	自然環境科学	計
募集人員	90人程度	60人程度	40人程度	120人程度	120人程度	70人程度	500人
出願者数	133人	146人	468人	137人	124人	75人	1,083人
合格者数	84人	61人	40人	102人	103人	63人	453人
倍率	1.6倍	2.4倍	11.7倍	1.3倍	1.2倍	1.2倍	2.4倍

※倍率は出願者数/合格者数

夏季集中科目の学生募集が始まります

広報課・学生課

夏季集中放送授業期間に「学校図書館司書教諭資格取得に資する科目」、「看護師資格取得に資する科目」を開設します。学生募集等の日程は下記のとおりです。

	学校図書館司書教諭資格取得に資する科目	看護師資格取得に資する科目
学生募集要項配布	平成21年4月1日(水)～	平成21年4月1日(水)～
出願受付期間	平成21年5月1日(金)～5月31日(日)	平成21年5月1日(金)～5月31日(日)
放送授業期間	平成21年7月22日(水)～8月8日(土)	平成21年7月22日(水)～8月11日(火)
通信指導提出期限	平成21年8月14日(金)	平成21年8月14日(金)
単位認定試験	平成21年10月19日(月) (単位認定試験レポート提出期限)	平成21年9月25日(金) 平成21年9月26日(土) いずれか1日を選択

夏季集中科目の受講を希望する方は、大学本部広報課又は最寄りの学習センターまでご連絡ください。この要項はご連絡いただいた方のみに配布します。在学生が履修を希望される場合にも科目登録申請要項(夏季集中型専用)を入手して、必要な手続きをお願いします。

平成21(2009)年度第1学期面接授業科目の追加登録

学習センター支援室

4月から始まる第1学期面接授業について、空席がある科目は追加登録をすることができます。

登録機会は2回、日程等は以下をご確認ください。

	空席発表日	登録受付期間	4月に 新規入学・継続入学 された方の申込み
第1次追加登録	4月中旬	4月下旬の10日間程度	○
第2次追加登録	6月上旬	6月中旬の10日間程度	○

空席状況(追加登録の対象となる科目)は、空席発表日以降、各学習センターの掲示・キャンパスネットワークホームページ(<http://www.campus.u-air.ac.jp/u-air/>)でお知らせします。受講したい科目をご確認のうえ、登録受付期間内に、当該科目を開設する学習センター・サテライトスペースへ申請してください。

※申請の際は必ず、学生証(コピーは不可)・授業料をご持参ください。

※申請の方法等詳しくは、当該科目を開設する学習センター・サテライトスペースへお問い合わせください。

編集後記

振り返ってみると、平成20年度はどのようなアカデミック・イヤーだったでしょうか。1年間の学習を通して、きっと多くの新しい知識に出会い、感動を体験されたことと思います。最近、私が感動したのは、帆船の出港の儀式である「登檣礼^{とうしょうらい}」です。船がタグボートに押されて岸壁から動く中、練習船の学生さん達が帆下駄に登り、黄色い作業帽をとって(つまり片手になり)「ごきげんよう」と3回叫ぶのです。よく見ると、上の方に女子学生の姿もありました。帆船の構造上、上に行くほど帆が小さくなるので、非力な人は上方のポジションをあてられるそうです。怖がりの私には絶対にできません。今頃、彼ら・彼女らは、大きなアルパトラスを横目に航海訓練を行っていることでしょう。

新年度の「知の航海」の無事を祈ります。ごきげんよう。(原田順子)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@u-air.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(平成21年度)

委員長 教授 柏倉 康夫

副委員長 教授 松村 祥子

委員 准教授 岡崎 友典

准教授 原田 順子

准教授 坂井 素恵

准教授 島内 裕子

准教授 二河 成男

編集事務担当 教務部学習センター支援室



放送大学

<http://www.u-air.ac.jp/> ISSN 1343-3369